

## Ⅸ 特用樹木の効率的増殖技術の開発

### 1 目的

トチノキ・クワ・コウゾは、菓子や健康食品、和紙原料として利用されており、その多くは国外から輸入されている。近年、国産回帰の消費志向に伴い、輸入材料から国産材料へシフトする動きが活発化しており、地域資源を活かした中山間地域の新たな収入源として期待されており、耕作放棄地等の有効利用にもつながる。トチノキ・クワ・コウゾとも国内需要は高く、新たな産地育成が見込まれることから、優良品種の効率的な増殖技術の開発が求められている。

本課題では、作業性がよく、クローン増殖が可能な「挿し木」に着目して、栽培者自身が容易かつ効率的に増殖できる「挿し木技術」を開発することを目的としている。

### 2 方法

2. 1 実施期間：平成28年度～平成30年度

2. 2 担当者：矢部 浩

2. 3 方法

2. 3. 1 発根促進剤の効果の検証

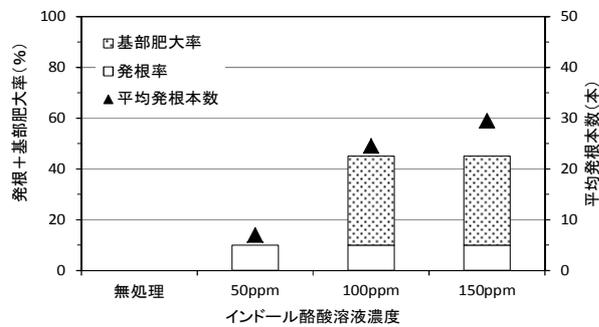
トチノキ、クワ、コウゾに表 1 に示す発根促進剤（インドール酪酸）濃度で基部の浸漬処理を行い、穂木の太さ別に発根の状況を調査した。浸漬時間は 24 時間とした。挿し木作業後は試験場内の自動灌水設備付きの寒冷紗を張った屋外ガラス室内で適宜ミスト散水を行いながら養苗した。養苗後は挿し木を抜き取り、発根状況を調査した。

表 1 試験内容

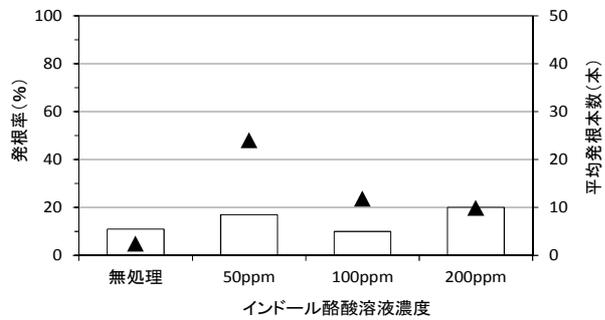
樹種	穂木長さ	用土	発根処理内容		供試本数	処理時期	調査時期
			発根促進剤の種類	濃度			
トチノキ	15cm	鹿沼土 (細粒)	インドール酪酸	50ppm	20	6月	翌年3月
				100ppm	20		
				150ppm	20		
			無処理	—	20		
コウゾ	15cm	真砂土	インドール酪酸	50ppm	42	3月	6月
				100ppm	42		
				150ppm	42		
			無処理	—	42		
クワ	15cm	真砂土	インドール酪酸	50ppm	130	7月	8月
				100ppm	180		
				200ppm	230		
			無処理	—	80		

### 3 結果

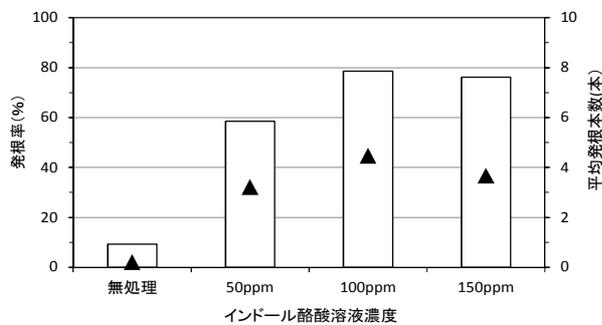
各樹種の発根促進剤濃度別の発根率と平均発根本数を図 1 に、直径階別の発根率と平均発根本数を図 2 に示す。トチノキの発根率が低く、発根促進剤濃度の違いによる差も認められなかった。ただし、発根促進剤を使用した区では、穂木の基部に発根の前兆である肥大がみられた。クワでは発根促進剤の濃度による発根率の違いは見られなかった。平均発根本数は 50ppm が他の濃度に比べて多かった。また、直径が大きくなるほど発根率と平均発根本数が増大し、直径 8mm 以上の穂木での成績が良かった。コウゾでは、発根促進剤の効果が顕著に現れ、無処理に比べ発根率と平均発根本数が大きくなった。穂木の直径によって発根率に大きな違いはなかったが、平均発根本数は、直径が大きくなるにつれ増加する傾向がみられた。



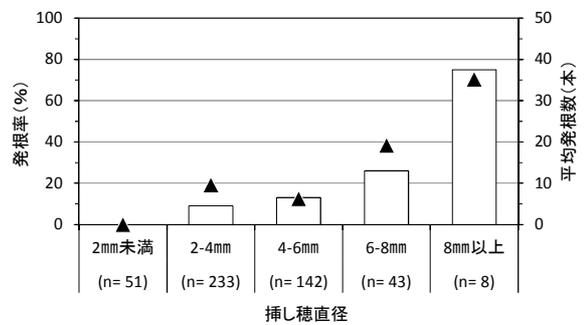
(i) トチノキ



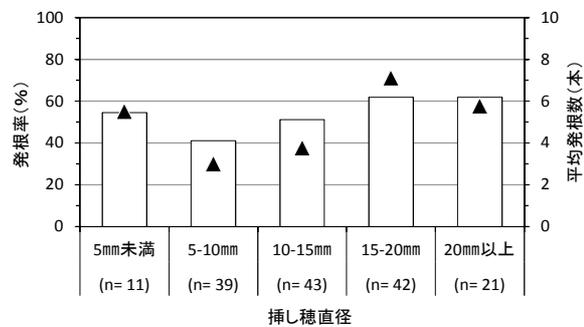
(ii) クワ



(iii) コウゾ



(i) クワ



(ii) コウゾ

図 2 挿し穂の直径別発根率と平均発根量

図 1 発根促進剤濃度別発根率と平均発根量